

ござれや花火ムービープロジェクト  
～花火大会を支える人たちの物語～  
活動の様子を紹介します

# 花火に懸ける思いを伝えたい 学生×北区松浜地域の取り組み

## 8月25日 活動スタート

「ござれやの灯を来年へつなげるために」と地元有志が集い、約75発の「シークレット花火」を打ち上げました。私たちも現場に立ち会い、松浜の皆さんの花火への思いを肌で感じました。



## 9月19日 打ち合わせ

制作する動画の方向性を話し合いました。前向きな機運が高まる動画を目指し、花火に関わる人の生の声を入れることを決めました。



## 9月27日 まち歩き

松浜のことをよく知るために、まち歩きガイドの上松さんにまちを案内してもらいました。神社や旧跡、松浜市などを巡り、川湊として栄えた地元の歴史を学ぶことができました。



## 10月26日～11月30日 取材

実行委員として花火に関わっている地元の人たち17人に、8回にわたってインタビューを行いました。皆さんが持っている花火への特別な思いや来年の開催に向けた決意を聞き、動画に収めました。



## 12月 動画編集

年内の完成を目指し、動画の編集作業を行っています。完成した動画は成果発表会＝下記事＝や同花火実行委員会ホームページなどで公開する予定です。



【参加学生】新潟県立大学国際地域学部2年 安ヶ平風歌さん(中央左)、渡邊朝映さん(同右)  
※中村文音さん(新潟大学農学部3年)は取材当日欠席  
【受け入れ団体】阿賀野川ござれや花火実行委員会・松浜Rプロジェクト  
小柳憲三さん(左端)、小林啓一郎さん(右端)

**伝統を未来へつなげるために**  
北区松浜地域で毎年8月25日に開催され、40年以上の歴史を誇る「阿賀野川ござれや花火」。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、初めて中止を余儀なくされました。同花火実行委員会企画部長の小柳さんの頭に浮かんだのは「積み重ねてきた伝統が途切れてしまうのではないかと」という危機感。「花火を上げられない代わりに、形として何かを残したかった。『ござれや花火を未来につなげたい』という思いを、学生の力を借りて動画で発信しようと考えました」(小柳さん)

**人の魅力が街の魅力に**  
参加学生の安ヶ平さんと渡邊さんは、ともに県外の出身。地域活動に関わることで新潟の地域や人について知りたかった。今回の取り組みに参加しました。二元々花火が好きで、イベントの裏方の人の話を聞いてみたいと思っていました。大規模な花火大会と違い、地元主体で運営されている「ござれや花火」に興味を持ちました(安ヶ平さん)。「地域を良くするために頑張っている人たちのことを、もっと知りたいと思いました」(渡邊さん)

**学生の参加が良いきっかけに**  
一方、松浜の皆さんにとっても、学生と一緒に活動することが刺激になっているといます。「松浜の地域や花火に興味を持ってもらえるのは率直にうれしいです。学生にインタビューをされることで、実行委員のモチベーションも高まりました」(小柳さん)。「ござれや花火は地元で暮らす私たちが自ら作り上げている花火だ、という思いが、これまであまり外部に伝わっていませんでした。そんな熱い思いを知ってもらえる良いきっかけになりました」

**活動終了後も続く関係**  
間もなく動画の完成を迎え、プロジェクトは終了しますが、学生と松浜地域の関係は今後も続いていきます。「これからも実行委員会の活動に関わりたいと思っています。学生ならではの視点で、来年の花火の企画や情報発信に携わってみたい」(安ヶ平さん)。「自分の周りにはいる学生にも、松浜やござれや花火の素晴らしさをもっと知ってほしい。観客としてももちろん、ボランティアなど『作る側』としても、地域と学生をつなぐ役割を担いたい」(渡邊さん)



同花火副実行委員長の玉木伸寿さん(写真左)。「花火への思いを外部に向けて話すのは初めて。動画を通してござれや花火の魅力が若い人たちに伝わると嬉しいです」

## ●「トビラ」プロジェクト成果発表会を開催します

学生と地域団体が今年度協働で実施した5つの取り組みの成果を発表します。各プロジェクトからの報告のほか、参加学生が活動を振り返るワークショップや観覧者との意見交換も行います。学生たちの地域に向ける熱い思いを聞いてみませんか。

日 1月23日(土)14時～17時  
場 市役所本館 定 先着50人 料 無料  
申 12月23日(水)から移住・定住情報サイト「HAPPYターン」で申し込み



昨年度の様子

## ●令和3年度も募集予定!「トビラ」に参加しませんか

地域の魅力に触れ、共に学ぶことで、あなたにとって新潟が「帰りたくなる場所」になります。学校の外で「新しい日常のトビラ」を開いてみませんか。

日 来年9～11月ごろ(週1回程度、全7～10回)  
対 県内の大学・短期大学・専門学校生 料 無料

※令和3年度の受け入れ団体の募集は来年6月ごろ、募集するプロジェクトの内容などは7月ごろ、いずれも移住・定住情報サイト「HAPPYターン」に掲載予定

